

震災津波伝承施設検討委員会での検討状況

(第2回 高田松原津波復興祈念公園有識者委員会 資料)

平成28年3月29日

1. 震災津波伝承施設検討委員会の概要

○ 所掌事項

- (1) 岩手県陸前高田市高田松原地区における高田松原津波復興祈念公園に整備する震災津波伝承施設(仮称)の検討に関すること
- (2) その他、震災津波伝承施設(仮称)に関して必要な事項

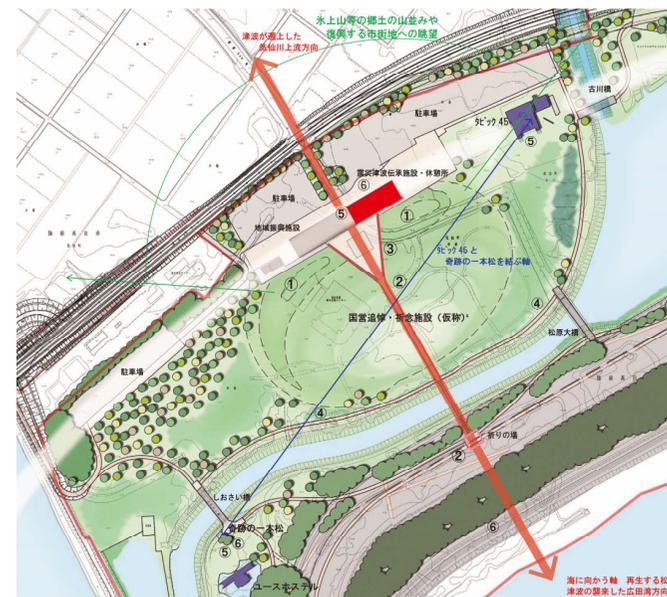
○ 委員名簿

区分	氏名	所属・役職等
委員長	南 正昭	岩手大学地域防災研究センター長、工学部教授
副委員長	柴山 明寛	東北大学災害科学国際研究所准教授
委員	小笠原 裕	株式会社岩手日報社常勤監査役
委員	山口 壽道	公益財団法人山の暮らし再生機構理事長 (元公益社団法人中越防災安全推進機構事務局長)
委員	熊谷 順子	株式会社復建技術コンサルタント事業企画本部 理事(元国土交通省東北地方整備局企画部防災課長)
委員	赤沼 英男	岩手県立博物館首席専門学芸員

○ 事務局

岩手県復興局
 岩手県県土整備部
 国土交通省東北地方整備局
 陸前高田市

■ 震災津波伝承施設(仮称)の計画位置



「高田松原津波復興祈念公園基本計画」
 (平成27年8月、復興庁・岩手県・陸前高田市)の
 P21をもとに作成

2. 検討スケジュール

有識者委員会【県】

8月5日開催

第1回有識者委員会

○検討方針(案)について

3月29日開催

第2回有識者委員会

○検討体制、スケジュール等について
○各委員会等検討状況について
○国営追悼・祈念施設(仮称)の
基本設計(案)について

震災伝承施設検討委員会【県】

9月4日開催

第1回委員会

○本委員会における検討事項と検討スケジュールについて
○震災津波伝承施設における展示の基本的な考え方について
役割や機能/目指す姿など

12月15日開催

第2回委員会

○県内各市町村の伝承施設等との機能分担・連携について
○展示展開の方向性について

2月22日開催

第3回委員会

○展示等基本計画(案)について

調査実施【県】

10月19～21日実施

県内伝承施設等調査

○沿岸12市町村ヒアリング調査

11月19～20日実施

先進事例調査

○中越メモリアル回廊視察調査

3. 第1回震災津波伝承施設検討委員会における主なご意見

日時:平成27年9月4日(金) 13:30~15:30

会場:岩手県公会堂21号室

出席者:南正昭委員長、柴山明寛副委員長、小笠原裕委員、
山口壽道委員、熊谷順子委員、赤沼英男委員



○関連施設との役割分担について

- ・ゲートウェイとしての広域的機能は、各個別施設と緊密な連携を図らないと効果を果たせない。地域施設との役割・機能の分担をきちんと行う必要がある。

○施設の基本的な役割・機能について

- ・施設の使命・ミッションを具体的に示すことが重要であるが、その絞込み、明確化が必要
- ・教育・研修機能、調査研究機能も必要、また知的観光の拠点にして欲しい

○展示の対象とする情報等の内容について

- ・3.11だけではなく過去の津波の経緯や記録も紹介したらどうか
- ・常に更新・発展させていくとともに、リアルタイムの情報も重要
- ・実物を効果的に活用することが重要、東北地整局の災害対策室の主要部分を活かして被災直後のオペレーションを伝達できないか。
- ・被災当日の間一髪等の出来事・エピソードも集めて残すことが重要
- ・街の復興の様子を写真だけでなく、現場で見てもらえるように誘導できると良い

○震災遺構について

- ・教訓を学ぶことについて、震災遺構などの実物を見ることは、強く印象に残る
- ・ベルコンなど、復興の途中で生まれて、消えていくものも可能な限り残し、見せていきたい。

4. 第2回震災津波伝承施設検討委員会における主なご意見

日時:平成27年12月15日(火) 10:00~12:00

会場:陸前高田市コミュニティホール大会議室

出席者:南正昭委員長、柴山明寛副委員長、小笠原裕委員、
山口壽道委員、熊谷順子委員、赤沼英男委員、
本多文人アドバイザー



○空間デザイン検討委員会の検討状況について

- ・復興の姿を一望できる場が必要。

○協働体制検討ワーキンググループの検討状況について

- ・この場に安心感がなければ、身近な陸前高田市民は使ってくれないのではないかと。

○県内市町村施設との機能分担・連携について

- ・この施設をゲートウェイとして、本施設で完結せずにまわってもらう事が大事。
- ・市町村と相互に議論していく必要があり、早い開始時期が望まれる。

○展示の方向性について

- ・歴史から何を学んだか、きちんと捉える事が大事。
- ・教訓や、3.11の解釈は社会変化とともに変わっていく可能性があるため、展示の入れ替えなど、フレキシビリティのある展示計画が必要。

○震災遺構について

- ・複数の遺構を残すことについては、各遺構の持つ意味を調査し、分かりやすく伝えることが大事

5. 第3回震災津波伝承施設検討委員会における主なご意見

日時:平成28年2月22日(月)13:30~15:00

会場:岩手県公会堂21号室

出席者:南正昭委員長、柴山明寛副委員長、小笠原裕委員、
山口壽道委員、熊谷順子委員、赤沼英男委員



(1) 震災津波伝承施設展示等基本計画(案)について

＜協働WGとの関連＞ワークショップで頂いた意見について、どのように反映されているか、県民に向けて丁寧に対応すべき

＜展示テーマ＞インパクトの強いメッセージが必要／海との共存や、地域文化についても入れてはどうか／短く、コンパクトに印象的にすることが大事／展示テーマは、施設の使命とは分けて、強く持続性のあるメッセージにしたほうが良い

＜施設の使命＞この震災の発信だけではなく、今後起こる災害についても学び続けるという視点が必要。／三陸には独特な素晴らしい文化、尊さを感じさせるものがある。そういったものを踏まえてはどうか。

＜展示の基本方針＞防災の基本「自助、公助、互助、共助」を提示するようにした方がよい。

＜展示内容＞「つなみてんでんこ」の意味について掘り下げた展示があるといい。岩手に施設がある意味を感じてもらえる。／全体を示してから、市町村レベルに絞り込んでいくという流れが、ゲートウェイ施設としてよい。／伝承施設を見てから広場に行く、またその逆もあることなどを想定し、三陸沿岸市町村へ誘う方法を検討することが必要。／「地域と交流する」のゾーンに市民協働ワーキングで考えられている「交流」を入れていく必要がある。／三陸の地域や自然との共生を紹介する導入展示では、素晴らしい面だけでなく、震災前の厳しい地域経済の状況等負の部分についても紹介し、新しいまちづくりの視点として提示してはどうか。

＜施設として考慮すべき事項＞ユニバーサルデザインを基本とすることや、開かれた施設であることを示すことが必要。／運営にあたって、案内する側も網羅的な知識が必要となるため、知識を持ってもらうための教育が大事になる。／最先端の情報技術を導入するという視点も大事。アーカイブについては大学との連携が前提となる。

＜全体について＞本施設での学習を通じて子どもたちを地域や社会の防災リーダーとして育てていくという考え方も必要。／復興の取り組みを紹介するにあたって、多様な主体の中に行政も位置付けるほうが良い。／三陸の郷土芸能は伝承施設と親和性がある。市町村と連携したイベントの開催などを行ってはどうか。／住民に参画してもらい息の長い施設としたい。